



キウス周堤墓群 1号周堤墓

東北北部・北海道には環状列石(かんじょうれっせき)が分布することが古くから知られていました。主に縄文時代後期前葉から中葉に構築されたもので、大規模なものは数千個にもおよぶ石を、直径30mを超える環状に配しています。投下された膨大な労力は早くから注意され、調査研究の対象となってきました。環状列石は戦後まもなく埋葬に関わる遺構として理解されるようになりましたが、その後、新たな環状列石の発見や既知の環状列石の調査に伴い、墓地だけでなく様々な祭祀に関わる遺跡としてとらえられるようになりました。近年では、大規模な整地が行われたことも明らかになっています。

また、東北北部・北海道以外の地域にもいくつかの環状列石の存在は知られていましたが、特に1990年代以降、調査事例が増え、現在では、その変化がとらえられるようになりつつあります。

周堤墓(しゅうていぼ)は、円形の堅穴(たてあな)の周囲に土を盛り上げ、堅穴内部に複数の墓をつくる縄文時代後期後葉の集団墓地で、北海道の石狩低地帯と道東に分布します。千歳市のキウス周堤墓群はその代表的なもので、周堤の外径が約75m、周堤と堅穴内部の高さの差は最大約5m

という巨大な周堤墓を含んでおり、縄文時代最大級の集団墓地といわれています。

狩猟・採集・漁労を主な生活基盤とした縄文人は、生産を直接に増やす事につながらないにもかかわらず、偉容を誇るといってもよいほどの巨大な構築物—モニュメント—を築きました。だからこそ、環状列石と周堤墓は縄文文化を理解する上で重要な遺跡であると言えるでしょう。展示会では、環状列石と周堤墓を、縄文社会の変動とともに紹介します。

主任学芸主査 中村 哲也

特別展 縄文のモニュメントとその社会 環状列石と周堤墓

- 期間 10月21日(水)~12月7日(月)
- 場所 1階特別展示室(大ホール)
- 時間 10月 9:00~18:00
11月~ 9:00~17:00
- 観覧料 一般 500円(400円)
高校・大学 240円(200円)
中学生以下無料、障がいのある方は免除。
※()内は20名以上の団体料金。
こちらの金額で常設展も観覧できます。